

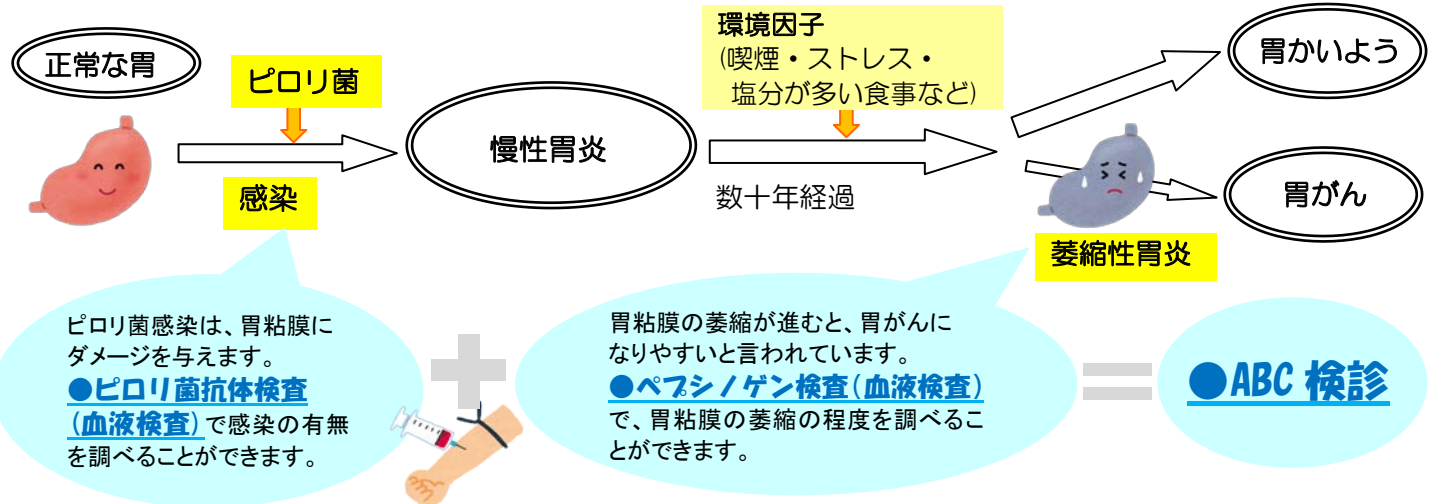


## 第21回は、「ABC検診(胃がんリスク検診)」について考えてみたいと思います。

今注目を集めているABC検診(胃がんリスク検診)。依然として、日本人のがん全体に対する胃がん死亡者数割合が上位を占める中、胃がん検診の受診率が低いことが問題視されています。ABC検診の特徴を理解し、胃がんの予防・早期発見・早期治療に役立てていけるといいですね。

### ABC検診(胃がんリスク検診)とは・・・

\*ピロリ菌に感染しても、胃かいかや胃がんを発生せず慢性胃炎の状態で一生涯を終える方がほとんどです。



この2種類の検査を組み合わせることによって、結果を下記の4群に分類し、「胃がんリスクの程度(胃の健康度)」を確認します。

	低い	胃がんのリスク		高い
	A群 健康な胃粘膜	B群 少し弱った胃	C群 弱った胃	D群 かなり弱った胃
ピロリ菌抗体検査	( - )	( + )	( + )	( - )
ペプシノゲン検査	( - )	( - )	( + )	( + )

**血液検査でわかる**ため、体への負担が少なく気軽に受けられるのが、ABC検診の特徴の一つです。検査の結果、高リスクの判定(胃が弱った状態)であれば、積極的に内視鏡検査などを受ける必要があることがわかり、胃がんの早期発見につながります。また、ピロリ菌感染が確認されれば、除菌により胃がんの発生を抑制することができます。ただし、直接胃を観察しているわけではないため、A群(低リスク)と判定されても完全に胃がんのリスクがないわけではありません。「がんを見つける」検査ではなく、胃がんのリスク(胃がんになりやすい状態になっていないか)を確認する検査であることを認識し、判定にあわせたその後の対応が大切です。

定期的な  
観察が大切です



### Q: 誰でも受けていいの?

A: ピロリ菌除菌治療後の方、胃の不快感がある方、胃かいかなどで治療中の方、プロトンポンプ阻害薬(オメプラール・タケプロン・パリエット)内服中の方または2か月以内に内服していた方、胃切除術後の方、腎臓の機能が悪い方などこの検査の対象とならない方もいます。これらに該当する方や、治療中の疾患がある方は主治医にご相談ください。

### Q: ABC検診で食道の異常はわかるの?

A: 通常の検診で受ける胃バリウム検査や胃カメラでは、胃がんのみでなく食道・胃・十二指腸のいわゆる上部消化管を診ることができますが、ABC検診で食道の評価はできません。胃の画像診断との併用や、心配な症状がありましたら消化器内科を受診していただくことをお勧めします。

**気になる症状がある方は、自己判断せず受診をして医師に相談されることをお勧めします。**

\*当健診センターでは、現在、ABC検診としては実施しておらず、「ピロリ菌抗体検査」「ペプシノゲン検査」を別々に判定しております。ご了承下さい。

参考資料: 健康な胃を取り戻そう! 監修: 杏林大学医学部第三内科教授 高橋信一 等

